



Medical Excellence  
JAPAN 理事長

### 近藤 達也

こんどう・たつや 東大医卒、国立国際医療センター病院長などを経て、08年医薬品医療機器総合機構（PMDA）理事長。「レギュラトリーサイエンス」（規制科学）を推進し、わが国の医療改革に貢献。19年から現職。77歳。

## 理想の医療目指す競争と協調

# 「絶対的価値観」で社会守れ

私たちは間違いなく、誰でも夢を描いて生活している。それではどのような価値観の下で、研究し、教育し、業務をし、生活しているのだろうか。

今回は価値観について考えてみる。最も大切なものが健全な肉体と精神を支える生命であり、そのために必要なものが順次列挙される。希少であればより高い評価となり、相対的にその価値が位置付けられる。物々交換の時代から貨幣経済の時代に進んで、文明が進み、貨幣などの富というものに大きな価値が生じてきた。全てのもが共通の相対的な価値観で評価されるようになり、動物的な競争的な感覚での価値が定着してきた。価値のある物を蓄え、富を求めて争いが起り、おびただしい数の戦争が引き起こされた。また人の価値をめぐって競争社会として当然のように肯定されることすらある状況だ。

しかし、このような競争的な相対的な価値観に基づく社会環境の中で、一方において人類が共存するための理性に基づく人間世界の育成を願って文化が醸

## 講壇



緊急事態宣言下の丸の内。平時は人のにぎわう屋時も閑散としていた

成され、多くの地域や民族の間で倫理と直結する「哲学」が育ち、社会生活の公平性と秩序の保全のために「法」が作られて今日に至るものであろう。これは社会を守るための「絶対的な価値観」に基づくものであり、成熟してきた社会では必須のものと考えられる。日本は人類共通のこの道をリードしていかなければならない。

医療は倫理である。個々人の健康をいかに増進させていくかに医学は挑戦し発展を遂げてきた。紀元前4世紀であるが、ヒポクラテスは、診療に当たって患者にとつて不利なことは絶対に行わないと誓っている。それはより良い医療を唱えて怪しげな技術も跋扈していた背景があり、当時からヒポクラテスの誓いのごとく高邁な正しい医療が求められてきたところである。

MEJは、日本の医療、医学と医療産業の健全な発展の推進を理念として掲げて業務を行っている。Rational Initial Medicine Initi

「active」を標語に掲げ、基本的に医療環境を含めて医学や関連する学問領域、医療産業に歪みのない「合理的な医療」の体制の強化を誘導し、また、医学や周辺科学を社会実装するための医療体制の合理的な体制整備に「レギュラトリーサイエンス」を用いて強化推進することになり進んでいる。そして国際的にも自律的に国の医療の発展を目指す組織として「MEJx」を各国に作ってもらおう活動を開始したところである。合理的な医療体制の整備を共同で行っていく国際的なアライアンスの構築を目指している。

このアライアンスは、それぞれの国の尊厳に基づくものである。お互いに対等の立場でそれぞれの国独自の医療の発展を支えられると考えている。

目指すは、すべからず絶対的な価値観での理念とそれに基づく業務遂行であり、相対的な価値観は客観的評価においてのみ適用されるべきだと考える。相対的な価値観を取り入れるべきではない。相対的価値観に基づく業務遂行は、競争心が先行し人格の崩壊につながりかねず、誇りも失う可能性がある。よしんば成功したとしても後味は悪い。相対的価値観を否定するものではないが、理想社会を目指す方法で、堅実に進化を目指して社会への貢献をする必要がある。学問はまさにそれが真理であり、発明、発見の礎でもある。

（今回は早稲田大学政治経済学術院副学術院長の深川由起子氏です）